

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学) 和泉宮学園 和泉幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・丈夫な体で、元気いっぱい活動する子どもに
- ・健康で安全に生活できるよう、基本的な生活習慣を身につける
- ・それぞれの個性を素直に伸ばし、能力を大きく豊かに育てる
- ・友だちや教師と喜んで話したり、聞いたりする態度を培う
- ・友だちと仲良く生き生きと遊ぶ子どもに
- ・感謝の心と、人を思いやる心を育てる
- ・自然や身近なものに親しみ、美しいものに感動したり感謝する子どもに

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施する事によって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組む。
また、園児の所在確認等の安全に対する取り組みを継続し、確実性を高めていく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

| | 評価項目 | 評価 | 取り組み状況 |
|---|--------------|----|---|
| 1 | 幼児のみとりと理解 | B | 担任以外の先生も、他の部屋を回って子ども達の中に入り、気付いたことがあれば、その状況を伝えるようにしている。 |
| 2 | 教職員同士の協力・連携 | A | 各場面での園児の所在確認について、現状で不備がないか定期的に全職員で話し合い、子どもの安全の為の連携を密にしている。 毎日の連絡や報告事項を、その日の保育終了後に職員同士で伝えあい全員で情報を共有している。また注意点・反省点なども報告・共有して今後に生かしていけるよう取り組んでいる。 |
| 3 | 研修・研究への意欲・態度 | A | 一日の活動・子どもの様子・反省を検討し、週案に記入し確認している。また、他の先生や主任、園長に相談し、アドバイスを受ける体制が整っている。 |
| 4 | 安全への配慮 | B | 自分で危険を察知できるように、年少→年中→年長と学年が上がる毎に保育者も関わり方を変えたり、外を歩くことを通して社会のルールを身につけられるよう取り組んでいる。 |
| 5 | 安全管理体制の整備 | A | バス乗降時の園児数確認や事故発生時等の対応手順のマニュアルを全職員に周知徹底している。ケガの対応については、その都度、報告する機会を設けている。救命救急、AED使用の講習を受けている。緊急連絡に有効なメールシステムについて、全保護者が登録を完了している。 |

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

| 評価 | 理由 |
|----|---|
| B | 全教職員が学校評価の主旨を理解し各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。今後も教職員個々の課題を客観的な目で振り返り、把握した上で研究保育を行いながら、保育内容を発展させていきたい。 |

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

| | 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|---|------------|---|
| 1 | 園の方針 | 園の方針や教育課程を再確認し、全教職員間の共通理解を深める機会を設定する。 |
| 2 | 教育環境・活動の充実 | 個々の子どもたちが、様々な経験や体験から学べる（自分で考え解決する力、生きる力等）ように様々な方向からの「ねらい」「活動内容」を検討し、さらなる教育活動の充実をはかる。日常の中で、年齢を越えた子ども同士の関わりの機会、環境を充実させる。 |
| 3 | 行事内容の充実 | 行事後の反省を次に活かせるように工夫する（反省ノートに改善点等をわかりやすく記載する）とともに、行事の内容に変化をもたせるなど、新しい活動も検討する。 |
| 4 | 安全管理体制の強化 | 災害(地震・火災)発生時の対応マニュアルを活用し、自治体等からの緊急通知を受け取った際に、全教職員が迅速に対応できるよう、さらなる訓練を実施する。 耐震性をより高めて完成した新園舎において、子どもたちが安心・安全に遊べる環境づくりに引き続き取り組んでいく。 |
| 5 | 情報公開体制の整備 | 今後はさらに情報公開の取り組みを充実させ、HP上での公開に努める。 |

6. 学校関係者評価委員会の評価

昨年同様、子どもの安全に対する取り組みを徹底していた。安全マニュアル等の見直しを行ってから期間が経つと、行動がパターン化され、マニュアルも形骸化しがちだが、定期的に細部の問題点について全職員で話し合い、改善を積み重ねていき、安全への取り組みに対する共通認識を深めていくことで、保育中の事故等の防止に繋げていくことができていた。